
恋と彼氏

伊明奇惟寸妓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋と彼氏

【コード】

N2804U

【作者名】

伊明奇惟寸妓

【あらすじ】

恋と付き合うことの違いに悩む女子高生の物語

1話

「あー彼氏ほしー」

女子高生ならではの
口癖みたいな
決まり文句みたいな

彼氏持ちは勝ち組で
独り身は負け組

ましてや17才にもなつて
今まで彼氏いたことありません
なんて言えたもんじゃない

いや実際、
独り身が勝手にわめいてるだけだけどね

「てかいろいろ頼れる男子ほしーわ」

そーゆーあなたは
もつと身なりに気をつけなさいww

とか思いながら
あたしの隣にいる
美佳を見た

美佳は

高校に入って初めてできた友達

帰る方面が一緒だからすぐに仲良くなれた

と、

今も一緒に電車で下校中

電車の中、二人並んで座った場所が
乙すぎた

2話

何が乙だったかって？

目の前には

お互いに寄り掛かりながら寝ている
高校生のカップルがいた

『失敗した』

二人同時に言ったとたん
ふきだしてしまった

そのカップルを見たために美佳は

「あー彼氏ほしー」
と言ったのだ

「うらやましいね」

美佳は目を細めて言う

「うちもさ彼氏作って制服デートとかしたいわ」

制服デート…ね

憧れるけど憧れないな…

「でもさ毎朝一緒に登校とかはめんどくね？」

「そんなこと言ってるから今まで彼氏いたことないんでしょーがw」

「それwww」

でもほんとに美佳にだけは言われたくないわー」

いつものやりとり

カップル見るたびにこの会話

そろそろほんとに卒業したいなあ…

「は？うち多分

葵よりリア充になんの早いからね？」

「はい、自重よろー」

そんな感じで騒いで

あたしたちは結局寂しくなるのだ

3話

「やばい遅刻する」
いつも家をでる時間に
目が覚めた

今どき
昔の漫画みたいに
食パンかじって登校
なんてことはしないけど

起きてから10分で家を出た

もちろん
朝ご飯は食べてないし
なのに学校に間に合うかどうかはわからない
ただ、チャリで普段15分かかかる最寄までの道のりを8分でこぎぬ
いた

駐輪場でチャリを置き
全速力で駅まで走る

【間もなく1番線の電車が発車します
閉まるドアにご注意下さい】

『間に合わないっ』

刑事ドラマで

主人公が大事な人を守りたい時ってこんな気持ちかな

とか思いながら

ホームへの階段を駆け降りた

4話

あと3歩

ほんとにあとちょっとのところであれなかった

周りの視線と

滝のように流れる汗で

恥ずかしさでいっぱいだった

でも次の電車に

乗らないわけにもいかず

電車を待つ人たちの列に加わった

「残念だったね」

その言葉に驚いて

横を見ると高校生らしい男の子がいた

茶髪

すっとしたあご

切れ長の目

色白の肌

すごいイケメンだ

「うっわイケメン……」

「え？」

隣にいる男の子がびっくりした顔をした

しまった……

つい思ったことが……

そう思ったときには遅かった

5話

「俺がイケメンかはわからないけど素直に口から思ったこと出るんだね」

隣にいる男の子は

堪えるみたいなの

でも堪えきれない笑い方をした

「ごめんなさい、つい」

「寝坊したの？」

「え？」

「いや、めっちゃ走って電車乗りたそうだったから、寝坊かなって」

恥ずかしかった

自分でも顔が真っ赤になるのがわかった

「あ、えと

すごい寝坊して、

学校遅刻しそうで」

「たまにあるよね

で、電車乗れないと恥ずかしいよね

今の君みたいに

俺はそんなりんごみたいに顔真っ赤にはならないけど」

あー恥ずかしい

しかもこんなイケメンの前で…

学校に遅刻するどころよりも

今はこの状況をどうくり抜けるかを考えるのに

あたしの頭はフル回転していた

6話

「いつも家出るはずの時間に起きちゃったんで」

これだけ言うのが精一杯だった
早く電車来てー

「中学生？」

「え？高校生ですけど」

いくら身長低かろうと
でふだろうと

さすがに高校生ですが…

と

言おうかと思ったけど
もちろん言わなかった
イケメンだし

「何年？」

「2年」

「うわダメじゃんか！
敬語やめていいよ？」

「会ったばかりだしもう二度と会わないだろうから敬語でいいです」

うっわ…

自分何可愛くないこと言ってるんだ…

こんなイケメンと話してんのに

仲良くなれるチャンスなのに…

「同じ最寄だし会っくんじゃない？」

確かに……

【間もなく1番線に電車が参ります
黄色い線までおさがり下さい】

いいタイミングで電車が来てくれそうだ

電車ないすっ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2804u/>

恋と彼氏

2011年10月9日00時20分発行